

熊本県版 確認申請図書の作成例

【暫定版】

本書の目的 令和7年4月1日施行の建築基準法及び建築物省エネ法の改正に対応した新2号建築物（木造2階建・在来工法）の確認申請図書の作成例を示すものです。
詳細な計算方法等を用いず、仕様規定のみで構造安全性及び省エネ基準への適合の確認を行うことを想定しています。

図面番号 図面名称

0-1 計画概要書・付近見取り図

0-2 仕様表 1

0-3 仕様表 2 建築基準法関係

0-4 配置図

0-5 建築面積・床面積求積図

0-6 1階平面図、2階平面図

0-7 立面図・断面図

0-8 シックハウス換気 ・採光計算表

0-9 壁量計算 求積図

0-10 壁量計算図、同表

0-11 壁量計算 四分割判定図

0-12 省エネ仕様基準適合説明図 ※省エネ適判を申請しない場合

0-13 参考図（設備平面図、構造詳細図）

（添付1）継手及び仕口の構造方法（0-10関連）

（添付2）新しい壁量等の基準に対応した表計算ツール（0-10関連）

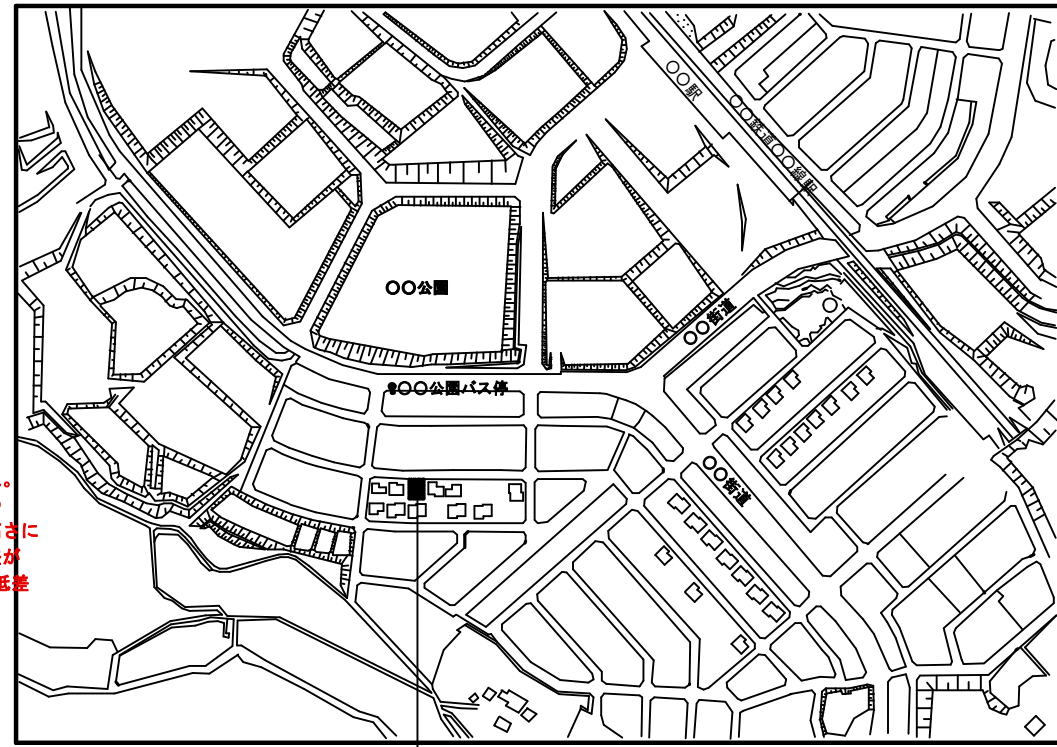
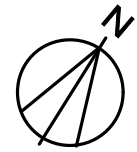
（添付3）省エネ基準適否チェックリスト（0-12関連）

青字：R7.4.1施行の法改正に伴う追加項目

工事名	熊本 太郎 邸 新築工事	一級建築士事務所 ○○センター建築設計事務所 一級建築士事務所 ○○○知事登録 第○○○○号 建築 次郎 一級建築士 ○○○○大臣登録 第○○○○号	図面名	表紙	図面NO
備考		熊本市中央区水前寺6丁目32番1号 TEL 096-000-0000 FAX 096-000-0000		縮尺	0-0

計画概要

工事名称	熊本 太郎 邸 新築工事	
建築主	住所	熊本市中心区水前寺〇丁目〇〇番〇号
	氏名	熊本 太郎
敷地概要	地名地番	熊本市中心区〇〇町〇丁目〇〇番〇号
	住居表示	熊本市中心区〇〇町〇丁目〇〇番〇号
	敷地面積	163.33㎡
	都市計画区域	都市計画区域内
	用途地域	第一種低層住居専用地域
	防火地域	指定なし
	指定建ぺい率	50.00%
	指定容積率	100.00%
	高さ制限	10m
	高度地区	指定なし
	日影規制	4時間、2.5時間、1.5m
	外壁の後退	1.0m
	風致地区	指定なし
	その他の指定	なし
建築概要	道路	前面道路4.00m、接道長さ11.0m
	用途	一戸建の住宅
	工事種別	新築
	構造	木造在来軸組工法
	階数	2階建て
	最高高さ	8.005m
	軒高さ	6.441m
	建築面積	71.21㎡
	1階床面積	69.14㎡
	2階床面積	52.99㎡
	延床面積	122.13㎡
	容積対象床面積	122.13㎡
	建ぺい率	43.60%
	容積率	74.77%
公的融資	—	
予定工期	令和〇〇年〇〇月〇〇日～令和〇〇年〇〇月〇〇日	
設備概要	給水	給水管本より
	給温水	ガス給湯器より
	排水	汚水雑排水～下水道本管処理
	ガス	厨房用・給湯用～都市ガス13A
	住宅用防災機器	<input type="checkbox"/> 厨房・熱感知器 <input type="checkbox"/> 和室・寝室 ・洋室①洋室②・階段・煙感知器
	換気	自然換気・第3種機械換気



「地盤面」からの高さを記入。
「地盤面」とは建物が周囲の
地面と接する位置の平均の高さに
おける水平面をいう。高低差が
3mを超える場合は、その高低差
3m以内ごとの平均の高さに
おける水平面。

■ 申請地 熊本市中心区〇〇町〇丁目〇〇番〇号

付近見取図 S:1/2500

工事名	熊本 太郎 邸 新築工事	一級建築士事務所 ○〇センター建築設計事務所 一級建築士事務所 ○〇〇〇知事登録 第〇〇〇〇号 一級建築士 ○〇〇〇大臣登録 第〇〇〇〇号 建築 次郎	図面名	計画概要書・付近見取り図	図面NO
	備考	熊本市中心区水前寺6丁目32番1号 TEL 096-000-0000 FAX 096-000-0000	縮尺	1/2500	0-1

外部仕上表		構造仕様	
屋根	アスファルトルーフィング22kg下地 住宅屋根用化粧スレート葺 (NM-2093)	土台	桧 120×120
軒天	繊維混入ケイ酸カルシウム板張 厚11mm (MN-Q579)	横架材	杉 120×120~240
外壁	窯業系サイディング張 厚18mm (PC030BE-9201)、プラスターボード厚9.5mm裏張	通し柱	杉 120×120
基礎	鉄筋コンクリート造ベタ基礎	出・入角柱	杉 120×120
開口部	アルミ枠、Low-E複層ガラスA12 (日射取得型)	管柱	杉 105×105
玄関戸	金属製フラッシュ構造戸 シングルドア欄間 袖なし プッシュプルドアハンドル/ダブルロックチェッカー他標準金具一式	構造金物	ホールダウン金物・Zマーク金物同等
勝手口戸	金属製フラッシュ構造戸 片開き 二重複層ガラス 納戸他金具一式	断熱材	外周壁・高性能グラスウール14K 厚95 屋根・高性能グラスウール14K 厚95+厚95 基礎断熱・押出法ポリエチレンフォーム3種bA 厚50
雨樋	軒樋・塩ビ製品120角 縦樋・塩ビ製品φ50	防雨・防蟻	1階床組・柱・間柱 (化粧材は除く) 防雨・防蟻処理~GL+1m迄 土壌処理
雨戸	雨戸付アルミサッシ/6ヶ所 雨戸・防火戸認定仕様パネル	備考	
ベランダ	床・T1構造用合板12mm 二重張り下地	玄関収納	W=1,200 天袋付き
ポーチ	300角タイル貼り		
破風・鼻隠し	ケイ酸カルシウム板サイディング張り厚12mm		
<div style="border: 2px solid red; padding: 5px;"> <p>※仕上げ材：22条区域や準防火地域に建築する木造住宅等の場合は、屋根、また、延焼の恐れのある部分の外壁等の仕上げ材は、不燃材や、防火構造とする必要がある。この場合は、仕上げ材の認定番号等を記入すること。(法22条、62条、63条、64条) また、配置図には、延焼ラインを記入すること。</p> </div>			

内部仕上表 1																	
階	室名	床		巾木		壁		天井		廻り縁	備考	室名					
		下地	材料仕上	材料仕上	高さ	下地	材料仕上	下地	材料仕上								
1階	玄関		300角磁器タイル		300角磁器タイル		プラスターボード12.5mm		ビニールクロス貼り		プラスターボード9.5mm		ビニールクロス貼り		櫃：集成フロア同色		
	ホール・廊下		構造用合板24mm		フローリング15mm貼		木製巾木		プラスターボード12.5mm		ビニールクロス貼り		プラスターボード9.5mm		ビニールクロス貼り		火気使用室の仕上げ材料種別や大臣認定番号を記入、内装の認定書の添付は不要とする。
	食堂・居間		構造用合板24mm		フローリング15mm貼		木製巾木		プラスターボード12.5mm		ビニールクロス貼り		プラスターボード9.5mm		ビニールクロス貼り		
	キッチン		構造用合板24mm		フローリング15mm貼		木製巾木		プラスターボード12.5mm		ビニールクロス貼り		プラスターボード9.5mm		ビニールクロス貼り		床下収納庫 流し前：キッチンパネル張り(準不燃)
	和室6帖 (大壁仕様)		構造用合板24mm		スタイロ畳55mm		畳寄せ		プラスターボード12.5mm		ビニールクロス貼り		プラスターボード9.5mm		ビニールクロス貼り		木製 内障子
	床の間		構造用合板24mm		銘木貼地板		雑巾摺り		プラスターボード12.5mm		ビニールクロス貼り		プラスターボード9.5mm		ビニールクロス貼り		木製 内障子
	浴室		構造用合板24mm		システムバス		システムバス		プラスターボード9.5mm		システムバス		プラスターボード9.5mm		システムバス		換気扇
	洗面・脱衣室		構造用合板24mm		塩化ビニル製床材		木製巾木		プラスターボード12.5mm		ビニールクロス貼り		プラスターボード9.5mm		ビニールクロス貼り		
トイレ		構造用合板24mm		塩化ビニル製床材		木製巾木		プラスターボード12.5mm		ビニールクロス貼り		プラスターボード9.5mm		ビニールクロス貼り		換気扇 (24h)	
2階	ホール・廊下		構造用合板24mm		フローリング15mm張		木製巾木 遮音マット4mm施工		プラスターボード12.5mm		ビニールクロス貼り		プラスターボード9.5mm		ビニールクロス貼り		
	主寝室10帖		構造用合板24mm		フローリング15mm張		木製巾木 遮音マット4mm施工		プラスターボード12.5mm		ビニールクロス貼り		プラスターボード9.5mm		ビニールクロス貼り		ロフト (GH1400以下) 可動ハシゴ付
	洋室①6帖		構造用合板24mm		フローリング15mm張		木製巾木 遮音マット4mm施工		プラスターボード12.5mm		ビニールクロス貼り		プラスターボード9.5mm		ビニールクロス貼り		
	洋室②8帖		構造用合板24mm		フローリング15mm張		木製巾木 遮音マット4mm施工		プラスターボード12.5mm		ビニールクロス貼り		プラスターボード9.5mm		ビニールクロス貼り		
	トイレ		構造用合板24mm		塩化ビニル製床材		木製巾木 遮音マット4mm施工		プラスターボード12.5mm		ビニールクロス貼り		プラスターボード9.5mm		ビニールクロス貼り		換気扇 (24h)
											※ 使用建築材料 建築仕上げ材料については、全て F☆☆☆☆ とする ※ 天井裏等の措置 天井裏、小屋裏、床下、壁、及び換気経路でない収納に使用する建築材料は、全て F☆☆☆☆ とする						

工事名	熊本 太郎 邸 新築工事	一級建築士事務所 ○○センター建築設計事務所 一級建築士事務所 ○○○知事登録 第○○○○号 一級建築士 ○○○○大臣登録 第○○○○号 建築 次郎	図面名	仕様表 1	図面NO	0-2
備考		熊本市中央区水前寺6丁目3番1号	TEL 096-000-0000 FAX 096-000-0000	縮尺		

■仕様表 2

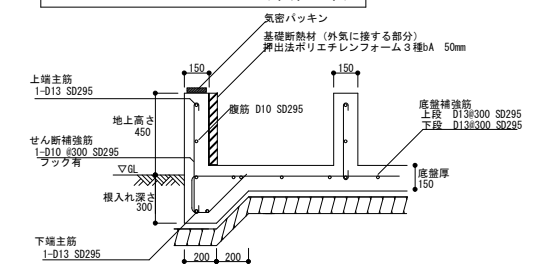
項目	小項目	仕様	備考	
建築材料 (法第37条)	基礎コンクリート	コンクリート JIS	設計基準強度 $F_c: 24 \text{ Nmm}^2$ 以上	
	鉄筋 JIS	スランプ: 18 cm以下 SD295		
令第2章第2節 (居室の天井の高さ、床の高さ及び防湿方法) (令第22条)	居室の床の高さ及び防湿方法	床の高さ	630 (直下の地面 (BM: 4.00) から)	
	防湿方法	防湿ポリエチレンフィルム $t=0.1$	気密バックシ工	
令第3章第2節 (構造部材等) (令第37条)	構造部材の耐久	構造耐力上主要な部分	腐食、腐朽、摩損のおそれのあるものに腐食等防止の措置	
	基礎 (令第38条)	支持地盤の種類及び位置	砂質地盤 (GL-0.5m)	基礎断面詳細図参照
		基礎の種類	鉄筋コンクリート造べた基礎	
		基礎の底部の位置	地盤面からの深さ: GL-1.00、根入れ: GL-3.00	
		基礎の底部に作用する荷重の数値、算出方法	地盤の許容応力度: 3.0 kN/m^2	
	地盤調査 (令第38条)	地盤調査	SWS試験	別添参照: SWS試験結果に基づく地盤調査報告書
		地盤改良	該当なし	
屋根ふき材等 (令第39条)	屋根ふき材の固定方法	スレート瓦 全数釘固定		
	屋外に面する部分の材等の緊結方法	和瓦 平部: 全数釘固定、横部: ねじ固定、軒・けらば: ねじ3本固定	※瓦屋根の場合の表記方法	
令第3章第3節 (木構造) (令第41条)	木材	木材の規格 (JAS) または等級	横架材、柱材、筋かい等、その他: 無等級材 耐力上の欠点のないこと	
	土台及び基礎 (令第42条)	柱脚の固定方法	土台 120×120 (ヒノキ、無等級材) を設ける	
		土台の固定方法	アンカーボルト (M12) + 座金 (厚) 4.5×4.0 角 14ϕ により 聚結、柱から200以内に設置 (設置間隔: 2700以内)	Zマーク表示金物又は同等認定品
	柱の小径 (令第43条)	横架材間距離	1階 柱小径105 $\geq de: 105 \text{mm}$ OK 2階 柱小径105 $\geq de: 79 \text{mm}$ OK	別添2参照: 新しい壁量等の基準に対応した表計算ツールの出力結果のde値
		柱断面の欠き取り (1/3以上)の有無	2階建てのすみ柱	1/3以上欠き取る場合は適切に補強 通し柱、又は同等の補強
		有効細長比 λ (最大値)	1階 柱小径105、横架材相互間内法 (座屈長さ) 2786 ∴ 柱の有効細長比 $\lambda = 9.1, 9 < 150$ OK 2階 柱小径105、横架材相互間内法 (座屈長さ) 2700 ∴ 柱の有効細長比 $\lambda = 8.9, 0 < 150$ OK	$\lambda = \sqrt{12 \times l / d}$ d: 柱小径 l: 座屈長さ = 横架材相互間内法
	はり等の横架材 (令第44条)	中央部付近の下側に耐力上支障のある欠き込み	欠き込み: 無し	
筋かい (令第45条)	筋かいの断面 筋かいの欠き込み	4.5×9.0 原則欠き込み無し (必要な場合) はずき部補強: 両面から短冊金物 (S) 当て六角ボルト (M12) 締め、スクリュー (ZS50) 打ち	Zマーク表示金物又は同等認定品	
構造耐力上必要な軸組 (令第46条)	第1項	主要な梁せい: スギ ($120 \times 120 \sim 240$)		
	第3項 床組・小屋はり組の火打、構造用合板等、振れ止め	床組: 構造用合板 (厚) 24 小屋はり組: 火打ちばり (木製)、振れ止め: 設置 火打土台: スギ (4.5×9.0) ユニツトバス、土間床部分は路く		
根手・仕口 (令第47条)	第4項 壁量基準 (耐震・耐風)	筋交い (4.5×9.0)、準耐力壁 (石膏ボード)	※別図による 図面0-10、図面0-11	
	筋かい端部	聚結方法: 筋かいプレート (B P 2等)	Zマーク表示金物又は同等認定品	
	耐力壁両側柱頭・柱脚	○平12建告第1460号の表 (1) ~ (3) ∴ N値計算による	添付: N値計算書	
	その他の柱頭・柱脚	かど金物 (C P - L) 等	Zマーク表示金物又は同等認定品	
防湿措置等 (令第49条)	鉄鋼モルタル下地等の防湿措置 構造上主要な部分の柱、筋かい、土台	耐力壁向きのための接合部仕様 たるき一軒折接合: ひねり金物 ST-15 たるき一もや接合: 鉄丸くぎ 2-N75 2本斜め打ち 小屋束一小屋はり・小屋束一もや接合: すがすがい C120 両面打ち	Zマーク表示金物又は同等認定品	
		該当なし 地面から1mの範囲で防湿・防蟻処理		

項目	小項目	仕様	備考
令第3章第4節の2 (補強コンクリートブロック造) ※ブロック造を新設する場合の表記方法	壁 (令第62条の8)	相違方法	控え壁なし
		材料の種類	建築用コンクリートブロックA種
防火構造 防湿除菌のその他のある部分	屋根 (法第22条)	壁の厚さ	150
		補強筋	壁内部: 縦筋に 80 cm 間隔に D10 配置 横筋: 壁頂・基礎強筋、縦筋: 壁端部、隅角部 D10 端部はかぎ状に: 折り曲げ、交差する鉄筋にかぎ掛け
居室の内装	内装材 (令第20条の7)	補強筋端部	住宅層根用化粧スレート葺き
		野地板	構造用合板特種 厚12
居室の換気	換気設備 (令第20条の8)	防水紙	鉄丸くぎ N38 150 ピッチでたるきに固定 改質アスファルトルーフィング $9.4 (2.2 \text{ kg})$
		外壁 (法第23条)	窯業系サイディング 厚18 通気工法
給排水能設備	建築設備の構造強度 (令第129条の2の3)	軒集 (令第108条)	窯業系サイディング 厚18 通気工法 繊維混入ケイ酸カルシウム板 (厚) 12 EP
		給排水能設備	全て F☆☆☆☆
給排水能設備	建築設備の構造強度 (令第129条の2の3)	給排水能設備	全て F☆☆☆☆
		給排水能設備	全て F☆☆☆☆
給排水能設備	給排水能設備 (令第129条の2の4)	給排水能設備	全て F☆☆☆☆
		給排水能設備	全て F☆☆☆☆
特定行政庁が条例、規則で定める規定	法第40条 法第41条	給排水能設備	全て F☆☆☆☆
		給排水能設備	全て F☆☆☆☆

※円滑な審査のために添付することが望ましい。

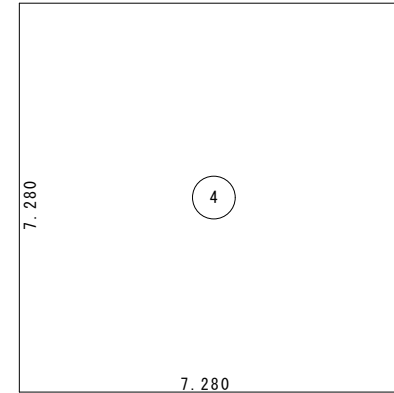
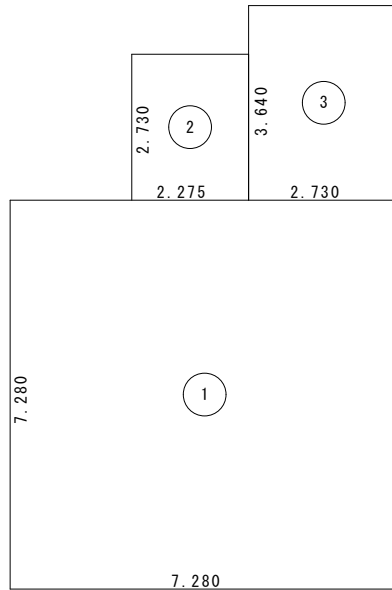
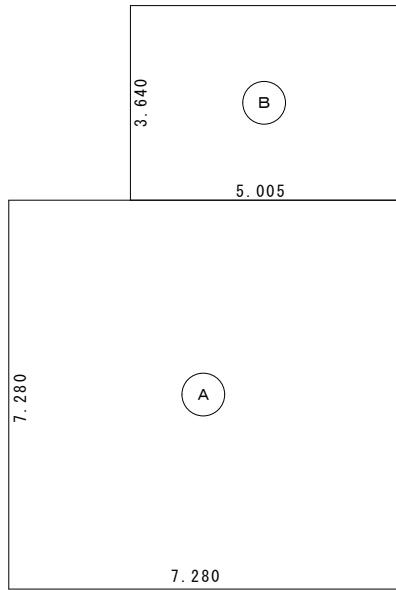
※設計方法をOで選択

基礎断面詳細図 S=1/20 (令第38条)



※この仕様表を添付することで、図面の書き込みを省力化することができる。

工事名	熊本 太郎 邸 新築工事	一級建築士事務所 ○○センター建築設計事務所 一級建築士事務所 ○○○知事登録 第○○○○号 建築 次郎 一級建築士 ○○○○大臣登録 第○○○○号	図面名	仕様表 2 建築基準法関係	図面 No	0-3
備考	熊本市中央区水前寺6丁目32番1号 TEL 096-000-0000 FAX 096-000-0000		縮尺			



建築面積表			
	形状	計算式	面積
Ⓐ	矩形	5.005 × 3.640	18.218200
Ⓑ	矩形	7.280 × 7.280	52.998400
Ⓓ	合計		71.216600
面積	計 (㎡)		71.21
	(坪)		21.54

小数点第3位以下を切り捨て

建ぺい率	71.21 ÷ 163.33	43.60%
------	----------------	--------

< 50%
小数点第3位以下を切り上げ

建築面積求積図 S:1/100

床面積表<1階>			
	形状	計算式	面積
①	矩形	7.280 × 7.280	52.998400
②	矩形	2.275 × 2.730	6.210700
③	矩形	2.730 × 3.640	9.937200
Ⓓ	合計		69.146300
面積	計 (㎡)		69.14
	(坪)		20.94

小数点第3位以下を切り捨て

1階 床面積求積図 S:1/100

床面積表<2階>			
	形状	計算式	面積
④	矩形	7.280 × 7.280	52.998400
面積	計 (㎡)		52.99
	(坪)		16.03

小数点第3位以下を切り捨て

延べ床面積	69.22+52.99	122.21
-------	-------------	--------

容積率	122.21 ÷ 163.33	74.83%
-----	-----------------	--------

< 100%
小数点第3位以下を切り上げ

2階 床面積求積図 S:1/100

工事名 熊本 太郎 邸 新築工事	一級建築士事務所 〇〇センター建築設計事務所 一級建築士事務所 〇〇〇知事登録 第〇〇〇〇号 建築 次郎 一級建築士 〇〇〇〇大臣登録 第〇〇〇〇号	図面名 建築面積、床面積求積図	図面NO 0-5
	備考 -----	熊本市中央区水前寺6丁目32番1号 TEL 096-〇〇〇-〇〇〇〇 FAX 096-〇〇〇-〇〇〇〇	縮尺 1/100

24時間換気システム (第3種換気)	
← ⊕ 24h	100φ
(浴室ユニット・常時換気機能付換気乾燥暖房機)	
← ⊕	排気 100φ
← □	給気 100φ
UC	アンダーカット

キッチン・食堂・居間 :
壁~プラスターボード12.5mm下地
ビニールクロス (準不燃)
LDK :
天井~プラスターボード9.5mm下地
ビニールクロス (準不燃)

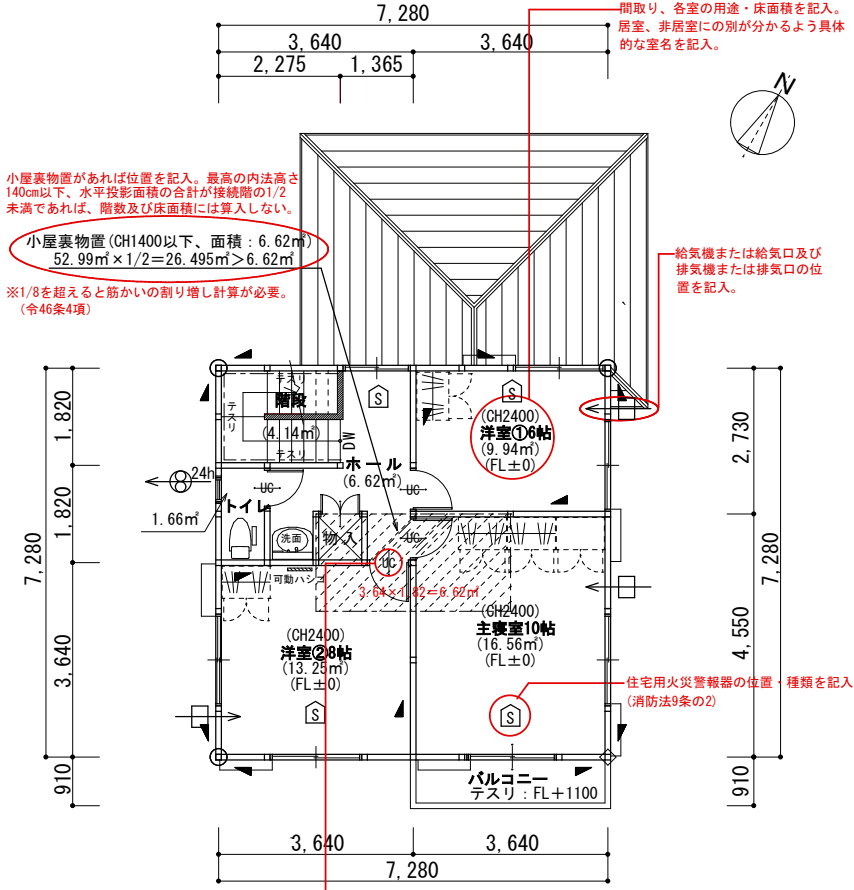
■火気使用の換気設備の計算式	
□ V=30KQ (排気フード付排気筒方式)	
V=(有効換気量)	
K=0.93m ³ /KW (理論排ガス量)	
Q=8.6W/h (燃焼器具の燃料消費量)	
□ V=30×0.93×8.6	
=239.94m ³ /h (有効換気量)	
※239.94m ³ /h<611.0m ³ /h	
(設計風量) (※OK)	
●設置換気扇: ○○○-△△ (メ-カ)	

出窓は床面積に算入するかどうか判断するために記入。
右記のとおり換気設備の計算式を記入。
燃焼器具の換気筒又は排気フードの位置を記入。

※住宅用火災警報器の設置場所・種類を記入。(消防法9条の2) 就寝の用に供する居室・階段の上部は煙に反応する感知器としなければならないので要注意。

※住宅用火災警報器	
Ⓢ	光電式煙感知
Ⓜ	定温式熱感知

：天井設置~壁又は梁から60cm以上離れた位置
：壁設置~天井から15cm~50cm離れた位置



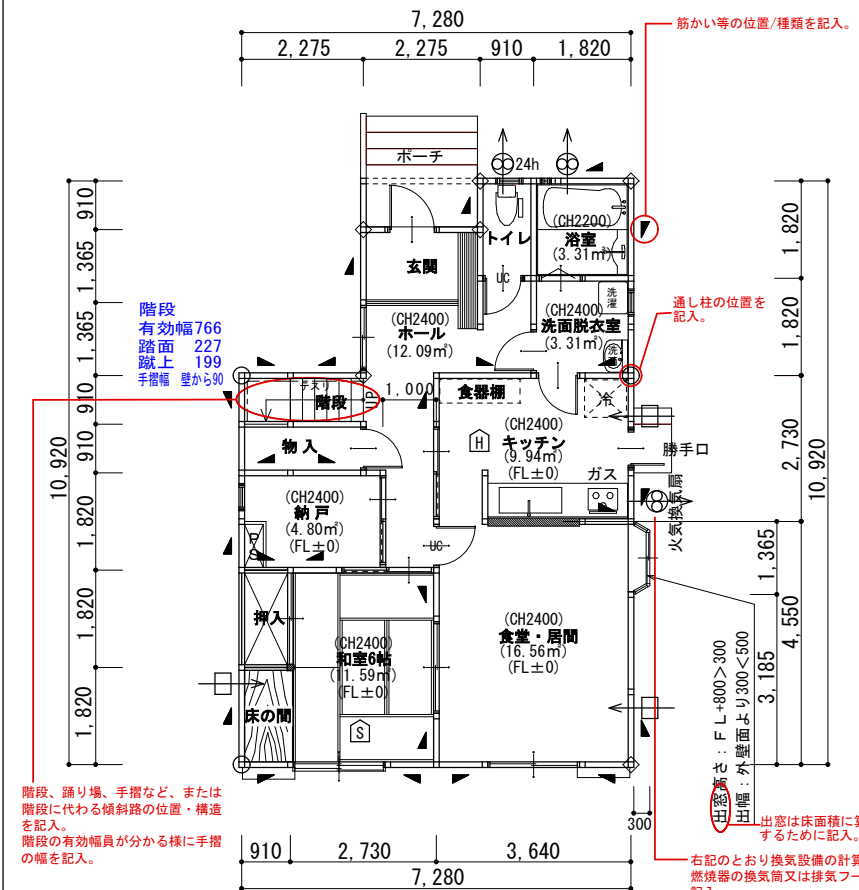
2階平面図 S:1/100 縮尺を記入。

シックハウス対策換気について換気経路を記入。(法28条の2 三号)

小屋裏物置があれば位置を記入。最高の内法高さ140cm以下、水平投影面積の合計が接続階の1/2未満であれば、階数及び床面積には算入しない。
小屋裏物置 (CH1400以下、面積: 6.62m²)
52.99m² × 1/2 = 26.495m² > 6.62m²
※1/8を超える筋かいの割り増し計算が必要。(令46条4項)

給気機または給気口及び排気機または排気口の位置を記入。

住宅用火災警報器の位置・種類を記入。(消防法9条の2)



1階平面図 S:1/100 縮尺を記入。

階段、踊り場、手摺など、または階段に代わる傾斜路の位置・構造を記入。
階段の有効幅員が分かる様に手摺の幅を記入。

筋かい等の位置/種類を記入。

凡 例	
—	大壁を示す
—	真壁を示す
—	土台 120×120 (桧)
—	出入隅120×120 (杉)
—	通柱 120×120 (杉)
—	管柱 105×105 (杉)
上	筋違 45×90
下	

※準防火地域等の場合は、延焼ライン1階3m、2階5mを記入。
※準防火地域等の場合は、延焼ライン内の防火設備、防火ダンパー、防火覆いの別を記入。

工事名	熊本 太郎 邸 新築工事	一級建築士事務所 ○○センター建築設計事務所 一級建築士事務所 ○○○知事登録 第○○○○号 建築 次郎 一級建築士 ○○○○大臣登録 第○○○○号	図面名	1階 平面図, 2階 平面図	図面NO	0-6
備考		熊本市中央区水前寺6丁目32番1号	縮尺	1/100		
		TEL 096-000-0000 FAX 096-000-0000				

※配置図などに記入した各部分の高さ、後退距離などの数値に不整合がない様に十分注意すること。

■小屋裏物置の面積が直下階の床面積の1/8を超える場合は、
 壁量計算（図面0-10）の床面積に次の面積を加算
 加算する面積 = 小屋裏物置の平均天井高 (m) × 小屋裏物置の床面積
 2.1m
 ■小屋裏物置の平均天井高
 3.69m × 1.82m ÷ 6.62m = 1.10m

道路斜線のチェック位置
 建築物部分の高さを記入。
 検封式を記入。
 後退緩和を適用する場合は
 塀等の構造高さも記入。

道路斜線緩和措置適用

法56条2項を適用する場合は後退距離を記入。
 最小の水平距離 630

採光補正係数の計算用高さ（開口部の垂直距離）を明示する。

換気扇、給気口の位置と寸法を明示する。

最高の内法高さを記入
 断面積: 3.69m²

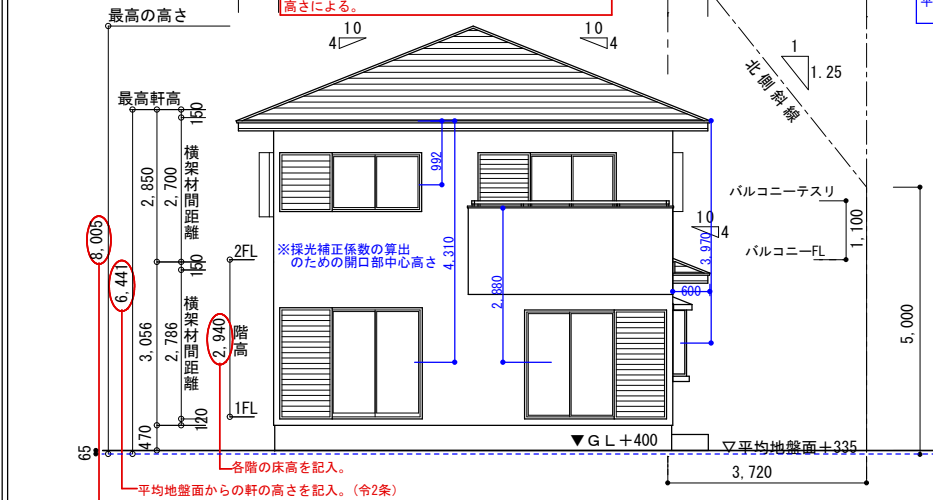
前面道路の中心高さが起点となる。

門・塀の位置・高さを記入。
 ※令130条の12の適用は、前面道路の路面の中心からの高さによる。

$$\text{平均地盤面} = \frac{0.4 \times (5.005 + 10.920 + 7.280 + 7.280)}{2.275 + 3.64 + 5.005 + 10.920 + 7.280 + 7.280} = 0.335\text{m}$$

各階の天井の高さ（天井のない場合は屋根）を記入。（令21条）

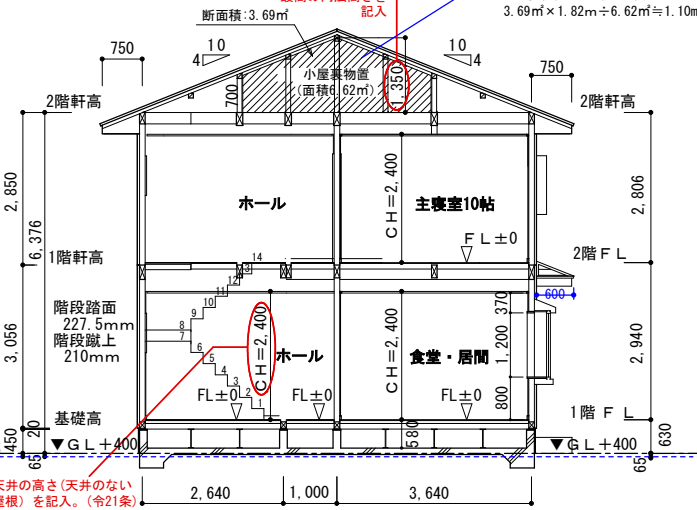
擁壁がある場合は、擁壁の設置位置を記入。



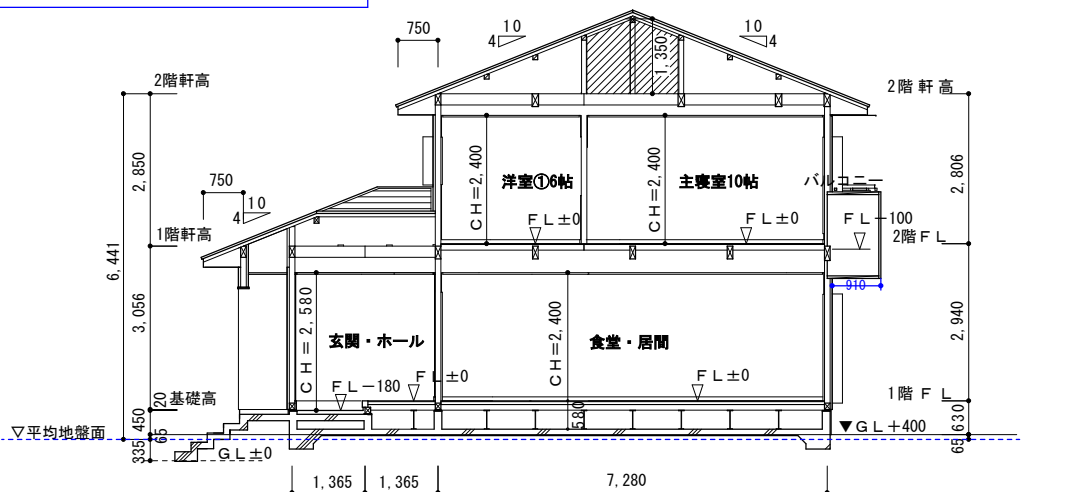
南側 立面図 S:1/100

工事名	熊本 太郎 邸 新築工事
備考	

一級建築士事務所 ○○センター建築設計事務所
 一級建築士事務所 ○○○知事登録 第○○○○号
 一級建築士 ○○○○大臣登録 第○○○○号 建築 次郎



1面 断面図 S:1/100



2面 断面図 S:1/100

図面名	立面図・断面図	図面NO	0-7
縮尺	1/100		

■シックハウス 機械換気 計算表

建築基準法第28条の2、建築基準法施行令第20条の8及び令第129条の6に基づく機械換気量の計算

■計算条件

換気方式	第3種換気 給気口及び排気機		
換気システム	センサー24換気システム		
電源周波数 [Hz]	60 Hz		
換気回数 [回/h]	0.50回 / h		
階数	1階	2階	合計
延床面積 [m ²]	69.14	52.99	122.13
換気対象面積 [m ²]	52.37	58.79	111.16
(内、共用室) [m ²]			
(内、個室) [m ²]			
換気対象外面積 [m ²]			
換気対象気積 [m ³]	127.43	144.65	272.08
必要有効換気量 [m ³ /h]	63.72	72.33	136.05

$Vr = n \cdot A \cdot h$

Vr: 必要有効換気量 (単位: m³/h)
 n: 換気回数 (単位: 回/h)
 A: 居室の床面積 (単位: m²)
 h: 居室の天井高さ (単位: m)

■必要換気計算 有効換気量または有効換気換算量、その他算出法・換気回数・必要有効換気量を記入。(法第28条の2)

階	部屋名	①	②	③=①×②	④	⑤=③×④	⑥	⑦
		床面積 (m ²)	天井高 (m)	部屋容積 (m ³)	必要換気回数 (回/h)	換気量 (m ³ /h)	設計換気量 (m ³ /h)	設計換気回数 (回/h)
1F	玄関ホール	12.09	2.58	31.19	0.50	15.60		—
1F	トイレ	1.82	2.40	4.37	0.50	2.18	75.00	—
1F	和室6帖	11.59	2.40	27.82	0.50	13.91		—
1F	居間・食堂	16.56	2.40	39.75	0.50	19.88		—
1F	出窓	0.37	1.20	0.44	0.50	0.22		—
1F	キッチン	9.94	2.40	23.86	0.50	11.93		—
		52.37		127.43		63.72		
2F	階段	4.14	5.34	22.10	0.50	11.05		—
2F	ホール	6.62	2.40	15.89	0.50	7.95		—
2F	洋室①6帖	9.94	2.40	23.86	0.50	11.93		—
2F	洋室②8帖	13.25	2.40	31.80	0.50	15.90		—
2F	主寝室10帖	16.56	2.40	39.74	0.50	19.87		—
2F	トイレ	1.66	2.40	3.98	0.50	1.99	75.00	—
2F	ロフト	6.62	1.10	7.28	0.50	3.64		—
		58.79		144.65		72.33		
		111.16	—	272.08	0.50	136.05	150.00	0.551
	共用室対応部分				0.50		≤	0.551

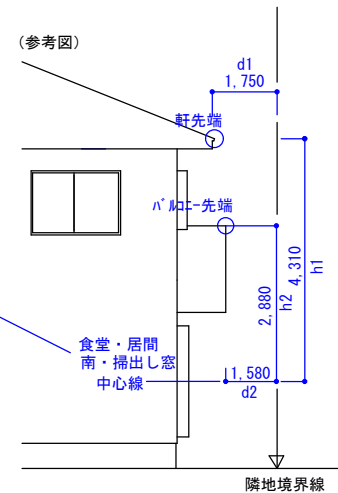
■必要換気設備機器

品番	数量	設計換気量 (m ³ /h)			備考
		排気風量	有効換気量	給気風量	
〇〇△△A	1	80.00	75.00		□社
〇〇-△△-W	1				□社
〇〇-△△-W	1				□社
〇〇-△△-W	1				□社
〇〇△△A	1	80.00	75.00		□社
〇〇-△△-W	1				□社
〇〇-△△-W	1				□社
〇〇-△△-W	1				□社
共用室対応部分合計		160.00	150.00		

建築主事等が求める場合は、機器等の性能を証明する図書(カタログ等)の添付が必要

■必要採光計算

階	部屋名	床面積	必要採光面積	開口部名称	寸法 (m×m)	採光面積	採光補正係数	有効採光面積	有効採光面積合計	判定
		①	②=①×1/7			③	④	⑤=③×④	⑥	
1F	食堂・居間	16.56	2.36	南・掃出し	1.6×1.8	2.88	住居系: 6d/h-1.4 計算式: 1.03・6×1.75/4.31-1.4 1.89・6×1.58/2.88-1.4	2.9660	3.23	OK
				東・出窓	1.1×0.7	0.77	0.35・6×1.1/3.76-1.4	0.2695		
	和室6帖	11.59	1.65	南・掃出し	1.6×1.8	2.88	0.97・6×1.75/4.42-1.4	2.7936	2.79	OK
2F	洋室①6帖	9.94	1.42	北・引違い	1.5×0.7	1.05	3.00・6×9.0/0.99-1.4	3.1500	6.30	OK
				東・引違い	1.5×0.7	1.05	3.00・6×1.0/0.99-1.4	3.1500		
	洋室②8帖	13.25	1.89	南・引違い	1.5×0.7	1.05	3.00・6×1.75/0.99-1.4	9.2060	6.30	OK
				東・引違い	1.5×0.7	1.05	3.00・6×1.0/0.99-1.4	3.1500		
主寝室10帖	16.56	2.36	南・掃出し	1.6×1.8	2.88	3.00・6×1.75/0.99-1.4	9.2060	11.79	OK	
				西・引違い	1.5×0.7	1.05	3.00・6×1.0/0.99-1.4	3.1500		

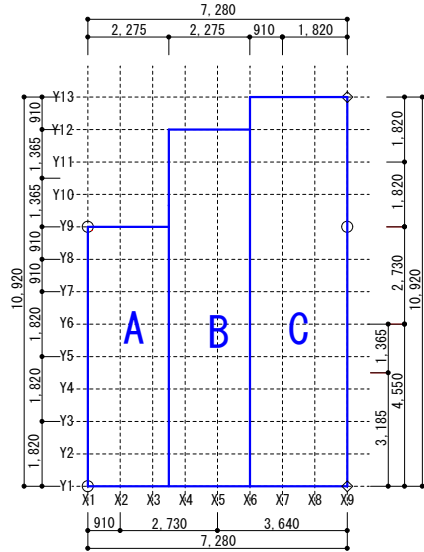


■必要換気量計算

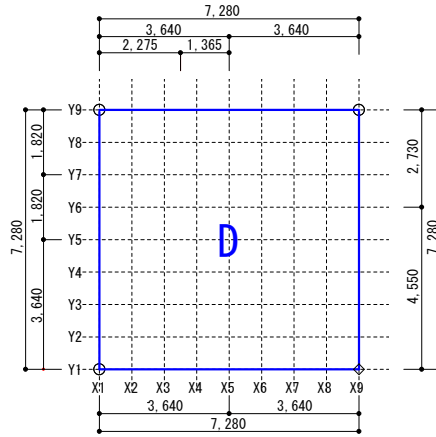
階	部屋名	必要換気面積	開口部名称	寸法 (m×m)	有効換気面積	有効換気面積合計	判定
		⑥=①×1/20			⑦	⑧	
1F	食堂・居間	0.77	南・掃出し	1.6×1.8×1/2	1.44	1.82	OK
			東・出窓	1.1×0.7×1/2	0.38		
	和室6帖	0.57	南・掃出し	1.6×1.8×1/2	1.44	1.44	OK
2F	洋室①6帖	0.49	北・引違い	1.5×0.7×1/2	0.52	1.04	OK
			東・引違い	1.5×0.7×1/2	0.52		
	洋室②8帖	0.66	南・引違い	1.5×0.7×1/2	0.52	1.04	OK
			東・引違い	1.5×0.7×1/2	0.52		
主寝室10帖	0.82	南・掃出し	1.6×1.8×1/2	1.44	1.96	OK	
			西・引違い	1.5×0.7×1/2	0.52		

<p>工事名</p> <p style="text-align: center;">熊本 太郎 邸 新築工事</p>	<p style="text-align: center;">一級建築士事務所 ○〇センター建築設計事務所</p> <p style="text-align: center;">一級建築士事務所 ○〇〇知事登録 第〇〇〇〇号 一級建築士 ○〇〇〇大臣登録 第〇〇〇〇号 建築 次郎</p>	<p>図面名</p> <p style="text-align: center;">シックハウス換気・採光計算表</p>	<p>図面 No</p> <p style="text-align: center;">0-8</p>
<p>備考</p>	<p style="text-align: center;">熊本市中央区水前寺6丁目32番1号</p> <p style="text-align: right;">TEL 096-000-0000 FAX 096-000-0000</p>	<p style="text-align: right;">縮尺</p>	

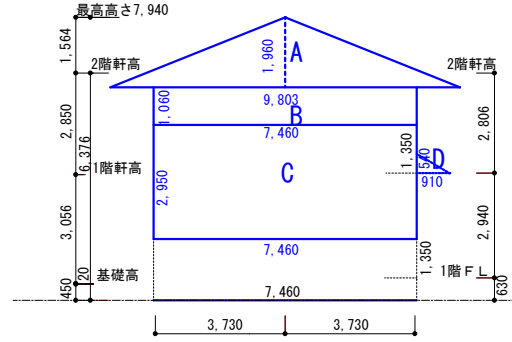
■1階 床面積算定図



■2階 床面積算定図



■X軸方向 見付面積算定図



※計算の簡易化のため、軒先・庇は大きく設定し計算している。

■Y軸方向 見付面積算定図

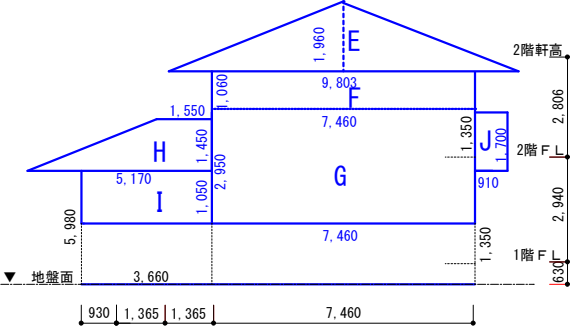


表 1

床面積表<1階>		
区画	計算式	床面積 (㎡)
A	$2,275 \times 7,280$	16,562
B	$2,275 \times 10,010$	22,772
C	$2,730 \times 10,920$	29,811
合計		69,145
		69.14

表 2

床面積表<2階>		
区画	計算式	床面積 (㎡)
D	$7,280 \times 7,280$	52,9984
合計		52,9984
		52.99

表 3

見付面積表<X軸方向・2階>		
区画	計算式	床面積 (㎡)
A	$9,803 \times 1,960 \times 1/2$	9,6069
B	$7,460 \times 1,060$	7,9076
合計		17,5145
		17.51

表 4

見付面積表<Y軸方向・2階>		
区画	計算式	床面積 (㎡)
E	$9,303 \times 1,960 \times 1/2$	9,6069
F	$7,460 \times 1,060$	7,9076
合計		17,5145
		17.51

表 5

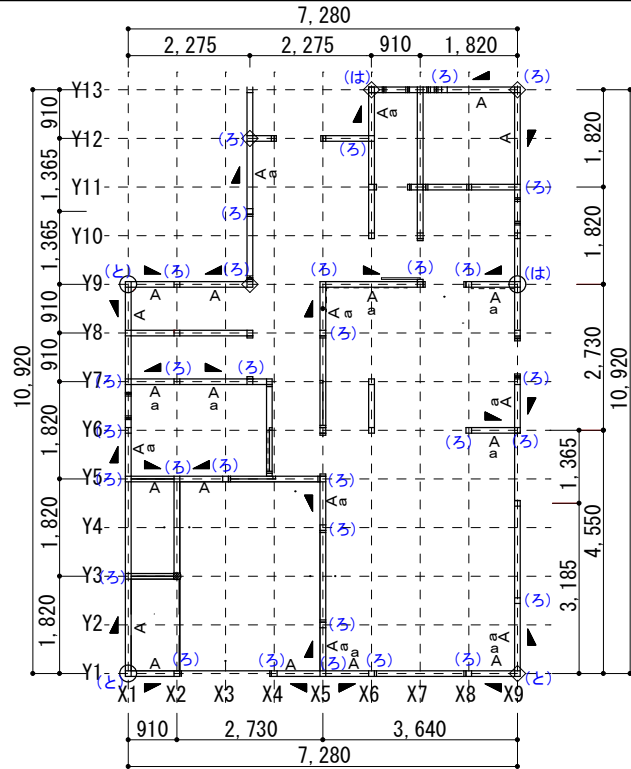
見付面積表<X軸方向・1階>		
区画	計算式	床面積 (㎡)
A	$9,803 \times 1,960 \times 1/2$	9,6069
B	$7,460 \times 1,060$	7,9076
C	$7,460 \times 2,950$	22,0070
D	$910 \times 540 \times 1/2$	0,2457
合計		39,7672
		39.76

表 6

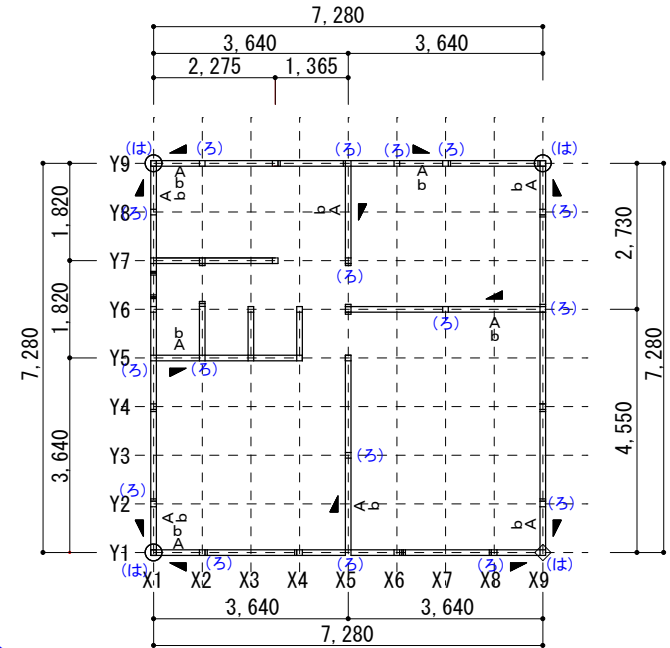
見付面積表<Y軸方向・1階>		
区画	計算式	床面積 (㎡)
E	$9,803 \times 1,960 \times 1/2$	9,6069
F	$7,460 \times 1,060$	7,9076
G	$7,460 \times 2,950$	22,0070
H	$(1,550 + 5,170) \times 1,450 \times 1/2$	4,8720
I	$3,660 \times 1,050$	3,8430
J	$910 \times 1,700$	1,5470
合計		49,7835
		49.78

工事名	熊本 太郎 邸 新築工事	一級建築士事務所 ○○センター建築設計事務所 一級建築士事務所 ○○知事登録 第○○○○号 一級建築士 ○○○大臣登録 第○○○○号 建築 次郎	図面名	壁量計算 求積図	図面NO	0-9
備考		熊本市中央区水前寺6丁目3番1号 TEL 096-000-0000 FAX 096-000-0000		縮尺 1/150		

■1階 壁量平面図



■2階 壁量平面図



<凡例>

- A : 筋交い45×90シングル
- B : 筋かい45×90ダブル
- a : 石膏ボード床勝ち大壁
- b : 石膏ボード床勝ち大壁

※平12年告示第1460号に基づく金物記号を記入
※N値計算法を採用する場合は、別に計算書を添付のこと

■表1 耐力壁・準耐力壁仕様一覧

種類	壁記号	仕様名	基準倍率	係数	開口有無	開口高さ (cm)	取付高さ (cm)	下地貼材高さ (cm)	垂壁高さ (cm)	腰壁高さ (cm)	下地貼材実高さ (cm)	横架材間内寸法 (cm)	有効壁倍率	最低厚さ (cm)	規格	釘打ちの方法	
																種類	間隔 (mm)
耐力壁	A	筋交い45×90シングル	2.0	—	—	—	—	—	—	—	—	—	2.00	—	—	—	—
	B	筋かい45×90ダブル	4.0	—	—	—	—	—	—	—	—	—	4.00	—	—	—	—
準耐力壁	a	石膏ボード床勝ち大壁	0.9	0.6	無	0.0	0.0	240.00	240.00	0.0	240.00	278.6	0.46	12.0	JIS A6901-2005	GNF40又はGNC40	150mm以下
	b	石膏ボード床勝ち大壁	0.9	0.6	無	0.0	0.0	240.00	240.00	0.0	240.00	270.0	0.48	12.0	JIS A6901-2005	GNF40又はGNC40	150mm以下

■表2 壁量判定

階	方向	地震力に対する床面積当たりの必要壁量			風圧力に対する見付面積当たりの必要壁量			必要壁量の算定				存在壁量 (cm)	壁量判定 必要壁量≦存在壁量
		床面積 (m ²)	係数 (cm/m ²)	必要壁量 (cm)	見付面積 (m ²)	係数 (cm/m ²)	必要壁量 (cm)	地震力 (cm)	記号	風圧力 (cm)	必要壁量 (cm)		
		A	B	C=A×B	D	E	F=D×E	G		F	G	H	I
2	X方向	52.99	(23)	1,218.77	17.51	50	875.50	1,218.77	>	875.00	1,218.77	1,579.76	OK
	Y方向				17.51		875.50	1,218.77	>	875.00	1,218.77	1,805.44	OK
1	X方向	69.14	(35)	2,419.90	49.78	50	2,489.00	2,419.90	<	2,489.00	2,419.90	3,347.88	OK
	Y方向				39.76		1,988.00	2,419.90	>	1,988.00	2,419.90	2,924.74	OK

↑表計算ツールにより算定(添付2)

■表3 存在壁量の算定

階	方向	壁記号	有効壁倍率	壁長 (cm)	存在壁量	存在壁量	存在壁量
					耐力壁 (cm)	準耐力壁 (cm)	合計
2	X	A	2.00	637.00	1,274.00		1,579.76
		b	0.48	637.00	305.76		
	Y	B	2.00	728.00	1,456.00		1,805.44
		b	0.48	728.00	349.44		
1	X	A	2.00	1,501.50	3,003.00		3,337.88
		a	0.46	728.00	334.88		
	Y	B	2.00	1,274.00	2,548.00		2,924.74
		a	0.46	819.00	376.74		

■表4 準耐力壁等の必要壁量に対する割合の確認

階	方向	必要壁量 A (cm)	準耐力壁量 B (cm)	B/A	判定 C<0.5
2	X	1,218.77	305.76	0.25	OK
	Y	1,218.77	349.44	0.28	OK
1	X	2,489.00	334.88	0.13	OK
	Y	2,419.90	376.74	0.16	OK

工事名 ※小屋裏物置の面積が直下階の床面積の1/8を超える場合は、各階床面積を加算(図面0-7参照)
熊本 太郎 邸 新築工事

一級建築士事務所 ○○センター建築設計事務所
一級建築士事務所 ○○○知事登録 第○○○○号 建築 次郎
一級建築士 ○○○○大臣登録 第○○○○号

図面名

壁量計算図、同表

図面NO

0-10

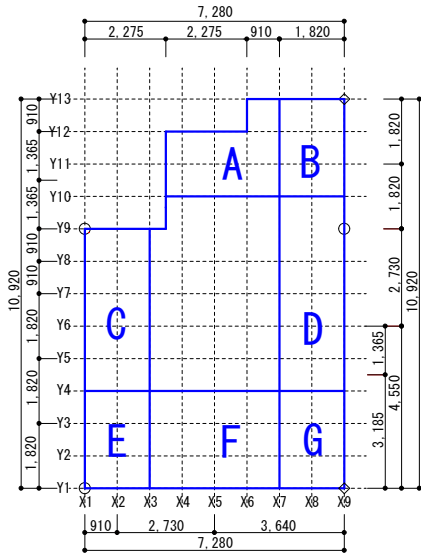
備考

熊本市中央区水前寺6丁目32番1号

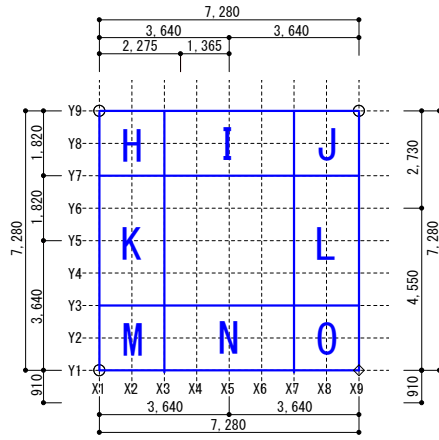
TEL 096-000-0000
FAX 096-000-0000

縮尺 1/100

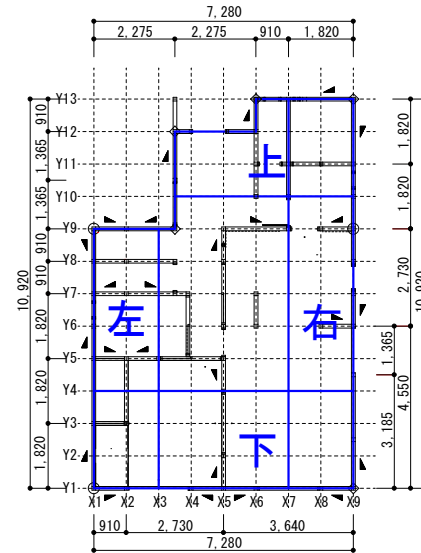
1階 四分割法 面積根拠図



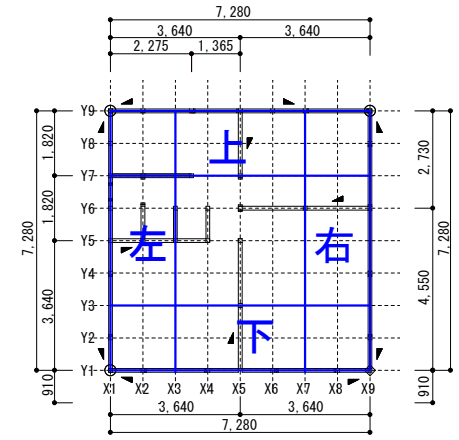
2階 四分割法 面積根拠図



1階 四分割法 平面図



2階 四分割法 平面図



■表1 四分割 対象面積表

階	方向	位置	計算式	面積
2	X	上	$H+I+J=0.91 \times 0.91 \times 16 \text{ コマ}$	13.24㎡
		下	$M+N+O=0.91 \times 0.91 \times 16 \text{ コマ}$	13.24㎡
	Y	左	$H+K+M=0.91 \times 0.91 \times 16 \text{ コマ}$	13.24㎡
		右	$J+L+O=0.91 \times 0.91 \times 16 \text{ コマ}$	13.24㎡
1	X	上	$A+B = 0.91 \times 0.91 \times 14 \text{ コマ}$	11.59㎡
		下	$E+F+G=0.91 \times 0.91 \times 24 \text{ コマ}$	19.87㎡
	Y	左	$C+E = 0.91 \times 0.91 \times 16 \text{ コマ}$	13.24㎡
		右	$B+D+G=0.91 \times 0.91 \times 24 \text{ コマ}$	19.87㎡

■表2 四分割 対象面積表

階	方向	位置	有効面積 (㎡) ①	壁量係数 (cm/㎡) ②	地震割増 ③	必要壁量 (cm) ④ ①×②×③	存在壁量 (cm) ⑤	壁量 充足率 ⑥ ⑤÷④	判定 ⑥≥1.00	充足率がNGの場合 判定 ⑦≥0.5
2	X	上	13.24㎡	23	1.0	304.52	364.00	1.19	OK	
		下	13.24㎡	23	1.0	304.52	364.00	1.19	OK	
	Y	左	13.24㎡	23	1.0	304.52	364.00	1.19	OK	
		右	13.24㎡	23	1.0	304.52	364.00	1.19	OK	
1	X	上	11.59㎡	17※	1.0	197.03	273.00	1.38	OK	
		下	19.87㎡	35	1.0	695.45	728.00	1.04	OK	
	Y	左	13.24㎡	35	1.0	463.40	728.00	1.57	OK	
		右	19.87㎡	35	1.0	695.45	819.00	1.17	OK	

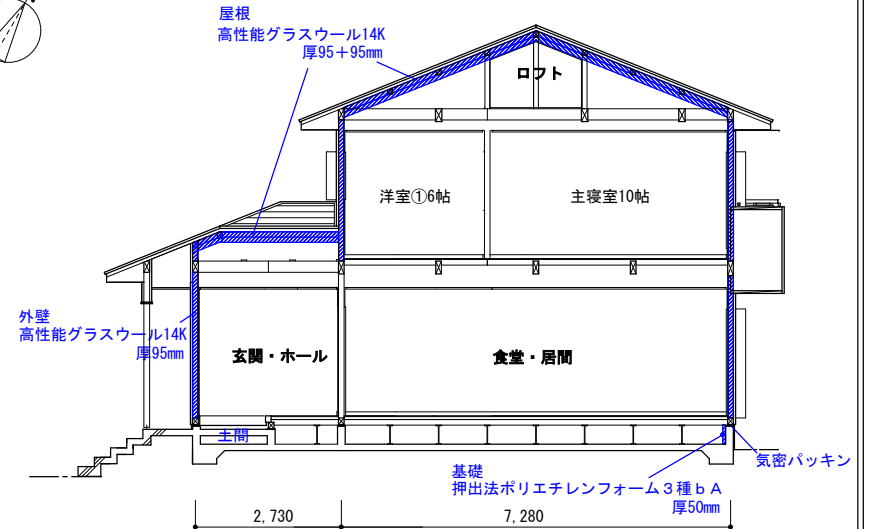
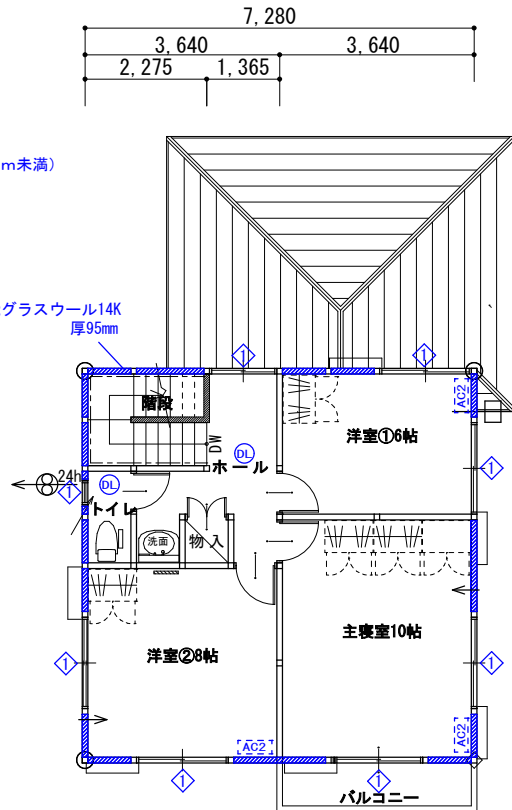
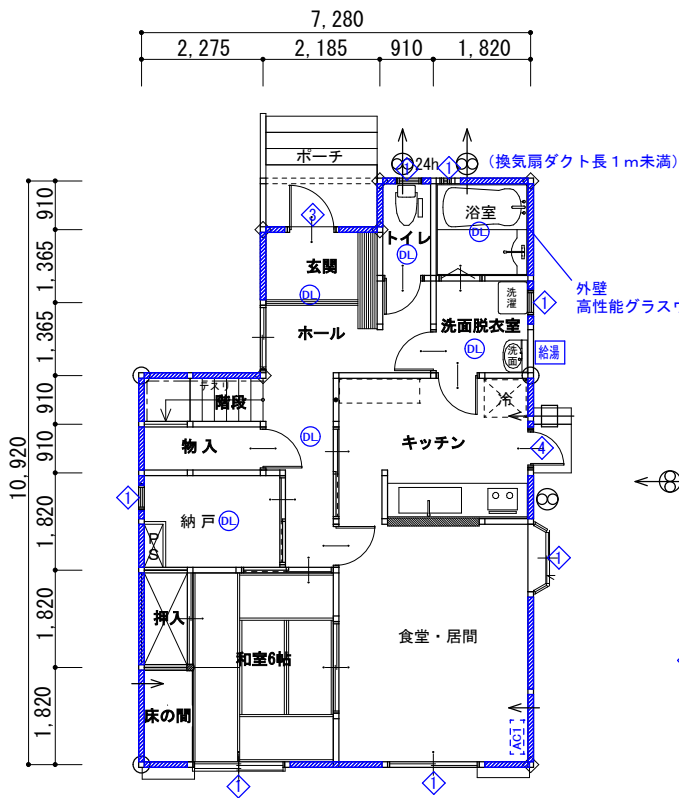
※2階が乗らないため平屋扱い

■表3 四分割 存在壁量

階	方向	位置	計算式	合計
2	X	上	Y9通 91cm×2箇所×壁倍率2.0 =364.00	364.00
		下	Y1通 91cm×2箇所×壁倍率2.0 =364.00	364.00
	Y	左	X1通 91cm×2箇所×壁倍率2.0 =364.00	364.00
		右	X9通 91cm×2箇所×壁倍率2.0 =364.00	364.00
1	X	上	Y13通 136.5cm×壁倍率2.0 =273.00	273.00
		下	Y1通 91cm×4箇所×壁倍率2.0 =728.00	728.00
	Y	左	X1通 (182cm+91cm×2箇所)×壁倍率2.0 =728.00	728.00
		右	X9通 (136.5cm+91cm+182cm)×壁倍率2.0 =819.00	819.00

↑ 準耐力壁量が必要壁量の1/2以下のため、
四分割壁量計算では、準耐力壁は考慮しない

工事名	熊本 太郎 邸 新築工事	一級建築士事務所 ○○センター建築設計事務所 一級建築士事務所 ○○○知事登録 第○○○○号 一級建築士 ○○○大臣登録 第○○○○号 建築 次郎	図面名	図面NO
			壁量計算 四分割判定図	0-11
備考	熊本市中央区水前寺6丁目3番1号		縮尺	1/150
		TEL 096-000-0000 FAX 096-000-0000		



軸組工法・充填断熱工法・基礎断熱工法

1面 断面図 S:1/100

仕様表 外皮基準 断熱材 (軸組工法・充填断熱工法・基礎断熱工法) 断熱材の熱伝導率

部位	仕様又は使用材料等	厚さ(mm)	性能値	基準値
屋根	高性能グラスウール14K	95+95	R=5.0	R \geq 4.6
天井				R \geq 4.0
壁	高性能グラスウール14K	95	R=2.5	R \geq 2.2
基礎 (外周部)	押出法ポリエチレンフォーム3種bA	50	R=1.8	R \geq 1.7
基礎 (その他部分)				R \geq 0.5

仕様表 外皮基準 開口部 開口部の熱貫流率U

部位	番号	仕様又は使用材料等	性能値	基準値(参考)
居室開口部	◇	【建具】金属製建具 【ガラス】Low-E二重複層ガラスA6	U=4.1 窓の出部	U \leq 4.7
	◇	【建具】金属製建具 【ガラス】Low-E二重複層ガラスA6・日射取得型	U=4.1 (日射取得型) $\eta=0.51$	U \leq 4.1
玄関扉	◇	【枠】金属製 【戸】金属製フラッシュ構造 二重複層ガラス	U=2.9	U \leq 4.7
	◇	【枠】金属製 【戸】金属製フラッシュ構造 二重複層ガラス	U=2.9	U \leq 4.7

機器表 一次エネルギー消費量基準 開口部の熱貫流率

部位	凡例	仕様又は使用材料等	性能値	基準値(参考)
暖冷房設備	△	ルームエアコン S社製 型番:AC-28xxx	エネルギー消費効率区分(L)	(I)又は(5)
	△	ルームエアコン S社製 型番:AC-22xxx	エネルギー消費効率区分(L)	(I)又は(5)
換気設備	⊗	壁付式第三種換気設備 T社製 型番:○○○-△△, ○○○-□□	-	-
給湯設備	給湯	【エコキュート】電気ヒートポンプ給湯機 U社製 型番:EC-37xxx	JIS効率 3.8	-
照明設備(昼間)	DL	LEDダウンライト	-	-

工事名
熊本 太郎 邸 新築工事

備考
参照図書:
建築物省エネ法 木造戸建住宅の使用基準ガイドブック4~7地域版 省エネ基準編

一級建築士事務所 ○○センター建築設計事務所
一級建築士事務所 ○○○知事登録 第○○○○号 建築 次郎
一級建築士 ○○○○大臣登録 第○○○○号

熊本市中央区水前寺6丁目32番1号

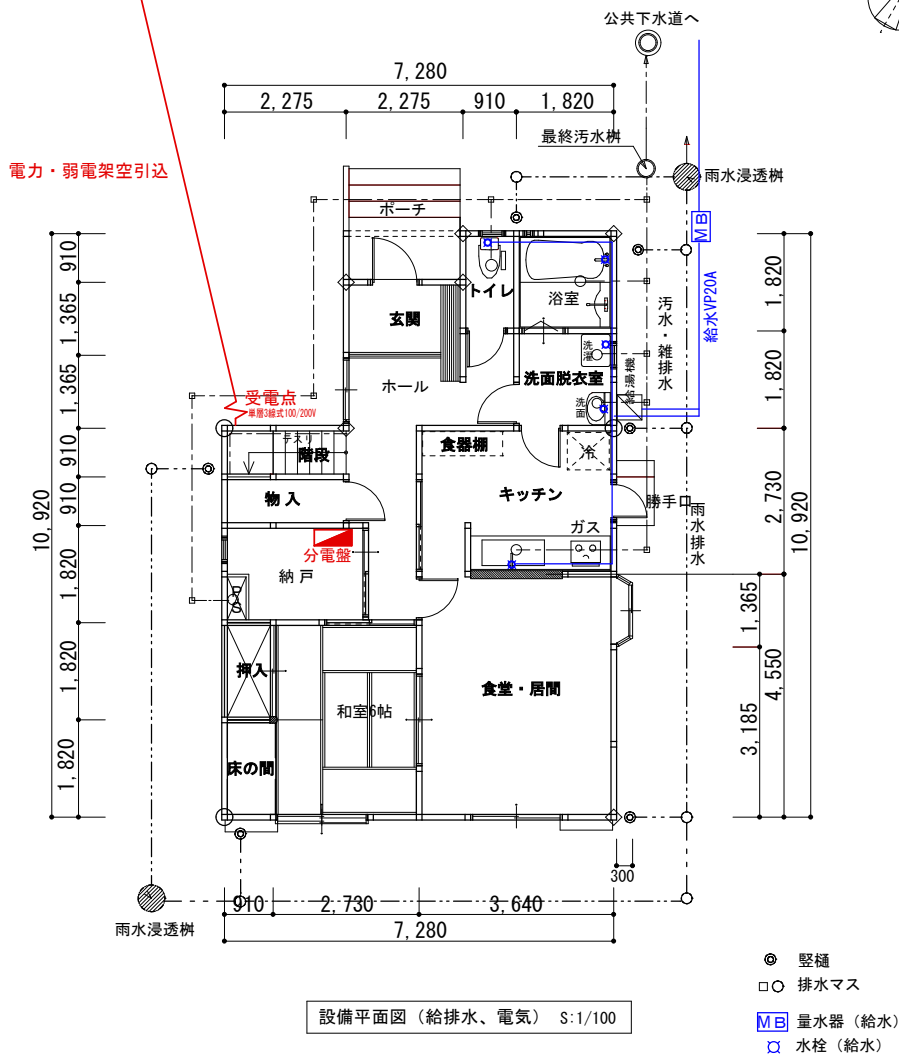
TEL 096-000-0000
FAX 096-000-0000

図面名
省エネ仕様基準適合説明図

縮尺 1/100

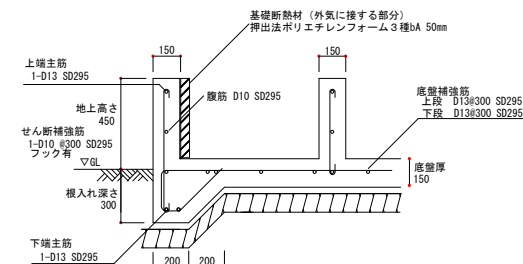
図面NO
0-12

—参考図—

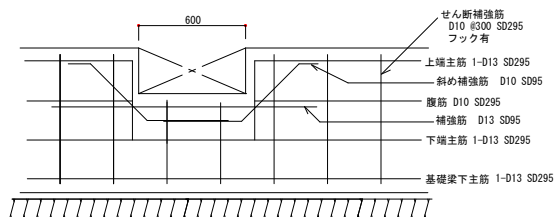


—構造詳細図の記入例—

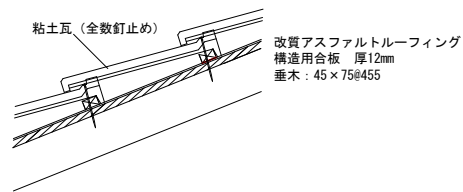
基礎断面詳細図 S=1/20 ※再掲載



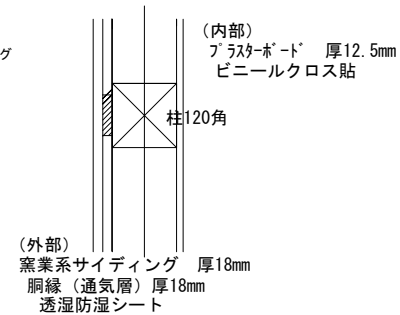
人通口まわりの開口部詳細図 S=1/30



瓦屋根断面図 S=1/10 ※法22条区域の場合



外壁断面詳細図 S=1/10 ※法22条区域の場合



<p>工事名</p> <p>熊本 太郎 邸 新築工事</p>	<p>一級建築士事務所 ○○センター建築設計事務所</p> <p>一級建築士事務所 ○○○知事登録 第○○○○号 建築 次郎</p> <p>一級建築士 ○○○○大臣登録 第○○○○号</p>	<p>図面名</p> <p>参考図 (設備平面図、構造詳細図)</p>	<p>図面NO</p> <p>0-13</p>
<p>備考</p>	<p>熊本市中央区水前寺6丁目3番1号</p> <p>TEL 096-000-0000</p> <p>FAX 096-000-0000</p>	<p>縮尺 1/100</p>	

	(い) 短ほぞ差し	(い) かすがい打ち	(ろ) 長ほぞ差し込み栓打ち	(ろ) かど金物 CP-L	(は) かど金物 CP-T	(は) 山形プレートVP-2	(に) 羽子板ボルト SP-E2 (E2)、羽子板パイプ SB・F2	(に) 短ざく金物S (別1-釘なし)
柱頭								
上下階								
柱脚								

	(ぼ) 羽子板ボルトSB-F(E)、羽子板パイプSP-E	(び) 短ざく金物S (別1-釘あり)	(へ) 引き寄せ金物 S-HD10	(と) 引き寄せ金物 S-HD15	(ち) 引き寄せ金物 S-HD20	(り) 引き寄せ金物 S-HD25	(ぬ) 引き寄せ金物 S-HD15×2	はりの仕口
柱頭								
上下階								通し柱と胴差しの仕口
柱脚								軒げたと垂木の仕口

工事名
熊本 太郎 邸 新築工事

備考

一級建築士事務所 ○○センター建築設計事務所
一級建築士事務所 ○○○知事登録 第○○○○号
一級建築士 ○○○○大臣登録 第○○○○号 建築 次郎

熊本市中央区水前寺6丁目3番1号

TEL 096-000-0000
FAX 096-000-0000

図面名
継手及び仕口の構造方法

図面 NO
(添付 1)

新しい壁量等の基準（案）に対応した表計算ツール（案）（2階建て用）（在来軸組工法用）

ver1.3

作成日	2024年7月15日	物件名	熊本太郎 新築工事			
設計者	一級建築士	登録番号	大臣	登録第	氏名	建築次郎
建築士事務所名	一級建築士 事務所	登録番号	知事	登録第		

※使い方：緑の枠に必要事項を入力するとオレンジの枠に結果が出力されます。

1. 階の床面積に乘する数値(単位 cm²/m²) (令第46条第4項)

項目	入力欄	入力の注意点等	
		2階階高 (m)	2.850
1階階高 (m)	3.056	2階床梁上端～1階土台上端までの距離	
標準せん断力係数C ₀	0.2	軟弱地盤の指定がある場合は0.3 (不明な場合は特定行政庁に確認)	
2階床面積 (m ²)	52.99	(ここでは小屋裏面積は含めなくともよい。)	
1階床面積 (m ²)	69.14	(ここでは小屋裏面積は含めなくともよい。)	
屋根の仕様	スレート屋根	プルダウン選択	
外壁の仕様	サイディング	プルダウン選択	
太陽光発電設備等(N/m ²)	なし(0)	太陽光発電設備等の質量を任意入力したい場合は「あり(任意入力)」*2をプルダウン選択し、右欄(緑)にその質量を入力する。	下記への入力は不要です。 設備等の質量 (kg)
		天井断熱材(N/m ²)	100 (初期値)
外壁断熱材(N/m ²)	70 (初期値)	断熱材の密度と厚さを任意入力したい場合は、「任意入力」をプルダウン選択し、右欄(緑)に値を入力する。異なる断熱材を重ねて使用する場合には2段に分けて記載する。	下記への入力は不要です。 密度(kg/m ³) 厚さ(mm)

*1: 固定荷重・積載荷重の根拠は [こちら](#)。

*2: 屋根面積に対しての均し荷重として算定される。

出力結果	【階の床面積に乘する数値】 (方法①)	1階	2階
		35	23

2 柱の小径 (令第43条第1項、第6項)

2-1～2-3の3とおりの算定方法があります。

採用する算定方法のタイトル横のチェックボックスに☑をご記入ください。

☑ 2-1 算定式と有効細長比より柱の小径を求める場合

算定方法における前提条件と注意事項は [こちら](#)。

階	出力結果	
	d _e /l *3	柱の小径d _e *4 (mm以上)
2階	1/34.7	79
1階	1/27.9	105

*3: 柱の必要小径d_e/横架材間距離l

*4: すぎ、無等級材 (平成12年建設省告示第1452号第5号) を前提として算定。解説・注意事項は [こちら](#)。



☐ 2-2 樹種等を選択し、算定式と有効細長比より柱の小径を求める場合

算定方法における前提条件と注意事項は [こちら](#)。

階ごとに①～④の4種類までの柱材が選択できます。

柱材の種類	入力値			出力結果	
	JAS規格	樹種等	等級等(積層数)	圧縮の基準強度 F _c (N/mm ²)	柱の小径 (mm以上)
2階	① 無等級材	すぎ	—		
	②				
	③				
	④ 国土交通大臣が基準強度の数値を指定した木材等		使用する場合は基準強度を記入		
1階	① 無等級材	すぎ	—		
	②				
	③				
	④ 国土交通大臣が基準強度の数値を指定した木材等		使用する場合は基準強度を記入		

☑ 2-3 柱の小径別に柱の負担可能面積を求める場合

算定方法における前提条件と注意事項は [こちら](#)。

階ごとに①～③の3種類までの柱材が選択できます。

数値入力することによって任意の断面寸法を設定することができます。

柱材の種類	入力値			出力結果：柱の負担可能面積 (m ²)						
	JAS規格	樹種*	等級	圧縮の基準強度F _c (N/mm ²)	105角	120角	任意入力①		任意入力②	
					長辺・短辺 (mm)	長辺 (mm)	短辺 (mm)	長辺 (mm)	短辺 (mm)	
2階 外周部の柱*	① 無等級材	すぎ	—	17.7	17.3	29.2				
	②			該当なし						
	③ 国土交通大臣が基準強度の数値を指定した木材等		使用する場合は基準強度を記入		0.0	0.0				
2階 内部の柱	① 無等級材	すぎ	—	17.7	23.5	39.5				
	②			該当なし						
	③ 国土交通大臣が基準強度の数値を指定した木材等		使用する場合は基準強度を記入		0.0	0.0				
1階 外周部の柱*	① 無等級材	すぎ	—	17.7	5.1	9.1				
	②			該当なし						
	③ 国土交通大臣が基準強度の数値を指定した木材等		使用する場合は基準強度を記入		0.0	0.0				
1階 内部の柱	① 無等級材	すぎ	—	17.7	7.1	12.7				
	②			該当なし						
	③ 国土交通大臣が基準強度の数値を指定した木材等		使用する場合は基準強度を記入		0.0	0.0				

*外周部の柱とは外壁面に存する柱を指す。内部柱とは外壁に面しない柱を指す。

